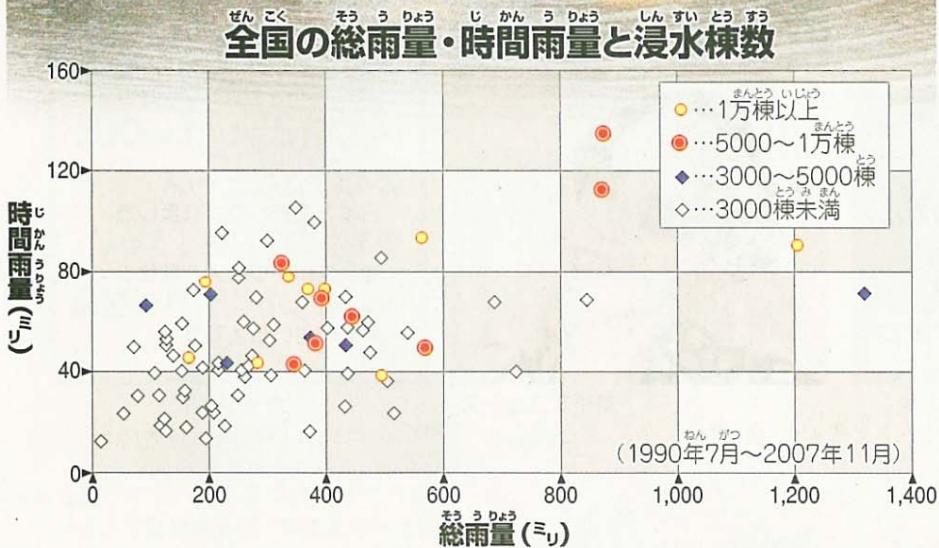




集中豪雨で冠水した甲府・富士見通りの
JR中央線高架下



水が速く上昇します。斜面や道路では速いスピードで水が流れますし、JR中央本線の下をくぐつて通る道路（アンダーパス）は水が一気にたまつて危険になります。

こうした危険性のある場所は、天気の良い時にみんなで一度見ておくと対応がとりやすいでしょう。危ない場所はマップに書いておくと、もつと良いですね。

（山梨大医学工学総合研究部社会システム工学科 畠井忠司）

すいがい ひと 水害は人ごとじゃない!! ひ たい さく かんが 日ごろから対策を考えよう

これから8月、9月と台風の季節を迎えるにあたつて、水害への備えをしまして、「水害って何?」と思ふ人も多いでしょう。山梨県では起らないのでしようか。

山梨でも起こるやまなし

以前、日本では各地で水害が多発しました。多い年は5千人以上が亡くなり、数十万の家が被害にありました。山梨県でも1959(昭和34)年の台風7号では、死傷者851人、66(同41)年の台風26号では、死傷者224人を記録しました。

最近では大きな水害は少なくなつてきましたが、それでも短い時間にたくさ

りラ豪雨による水害は多く発生しています。甲府市でも2004(平成16)年に76ミリの時間雨量(1時間でたまたま水の深さ)が発生して、相生地区で100軒以上が浸水する被害が出ました。一般的な目安として、時間雨量が40ミリ以上で被害が発生、70ミリ以上で大きな被害が発生すると考えておきましょう(ゲラフ)。

避難できる日安は、小学校高学年の児童で水深20cmです。避難するときはみんなでロープを持つて、また足もとが危なくなるほどうかを棒で確かめながら歩くようにします。

よなかふしぎわ
世の中には不思議で分かりづら
いことがたくさんあります。自然
かがくれきしくわせんせいと
科学、歴史など、詳しい先生に解
あき明かしてもらいましょう。

避難できる目安は、小学校高学年児童で水深20センチです。避難するとときはみんなでロープを持って、また足もとが危なくなるかどうかを棒で確かめながら歩くようにします。